

膣カンジダ症 (Thrush)

別名：カンジダ、イースト菌感染症、真菌、真菌症

膣カンジダ症は、膣内に自然に存在するイースト菌が過剰に増殖することにより引き起こされる、よく見られる感染症です。

重要ポイント

- 膣カンジダ症は、膣内に存在するカンジダ・アルビカンスと呼ばれるイースト菌が過剰に増殖することで発症します
- 通常の特徴としては、白くて粘り気のあるおりものや、膣/外陰部（いずれかもしくは両方）のかゆみ、外陰部の腫れ・ただれや裂傷、セックスや排尿時の不快感または灼熱感、痛みなどが含まれます
- 膣カンジダ症はSTI（性感染症）とはみなされていませんが、ペニスを持つ性的なパートナーのペニスにも、赤みや炎症・かゆみが現れることがあります
- 膣クリームや膣錠（ペッサリー）、錠剤の使用・服用が、イースト菌の過剰な増殖を抑制して症状をやわらげるのに役立ちます
- 膣カンジダ症は不快感をもたらしますが、不妊症や妊娠合併症などの長期的な健康上の問題を引き起こすことはありません

膣カンジダ症とは？ (What is this?)

膣カンジダ症は、非常によく見られる症状です。カンジダ・アルビカンスは、膣カンジダ症を引き起こすタイプの膣内イースト菌のなかで、もっともよく見られるものです。カンジダ・アルビカンスはイースト菌とはいえ、食べ物に含まれているイースト菌とは異なります。

膣内に少量のイースト菌が存在するのは正常なことであり、通常は問題になることはありません。膣カンジダ症の症状を引き起こしてしまうのは、このイースト菌が過剰に増殖したときだけです。

膣カンジダ症にはどのようにして感染するのか (How do you get it?)

膣カンジダ症は特定の明確な理由がなくても発症することがありますが、つぎのような要因が発症の可能性を高めます：

- 抗生物質
- 妊娠
- 糖尿病
- 特に擦れが生じる環境で、皮膚が汗ばんで湿気のある状態であること（例：サイクリングやセックスなど）
- 皮膚炎・湿疹や乾癬などの、もともとある皮膚疾患
- 免疫機能を抑制する薬

膣カンジダ症は STI とはみなされていませんが、ペニスを持つ性的なパートナーのペニスにも、赤みや炎症・かゆみが現れることがあります。これはコンドームを使わないでセックスをした後に、特に多く見られます。

膣カンジダ症の症状 (What are the symptoms?)

膣カンジダ症の症状には、つぎのようなものが含まれます：

- 外陰部や膣のかゆみと不快感
- 排尿時やセックス中の灼熱感と痛み
- 白くて粘り気があり、小さく固まったおりもの（カッターチーズ状と形容できるようなおりもの）
- 外陰部と膣の周辺が赤みがかって腫れあがったようになり、皮膚に細かいひび割れや裂傷が見られることもあります

こうした症状がひとつでもあるときは、通常は市販の医薬品で治療できます。

しかし、つぎのような場合は医師の診察を受けてください：

- 膣カンジダ症を発症しているかどうか自分でもわからない
- これまでに膣カンジダ症を数回発症している
- 最近、新しいパートナーとコンドームを使わないでセックスをした
- 下腹部や性器の周辺に痛みや異常な出血が見られる
- 膣カンジダ症の治療をしたものの、症状が良くならなかった
- 外陰部の形状や質感／手触り、色が変化しているのに気付いた

頻繁に膣カンジダ症が発生するのは、慢性的な外陰部皮膚炎の兆候かもしれません。

膣カンジダ症の検査方法 (How do you test for it?)

膣カンジダ症の検査は、膣と外陰部の裂傷箇所からのスワブによるサンプル採取で行われます。

膣カンジダ症の治療法 (How is it treated?)

膣カンジダ症の治療には、抗真菌クリームや膣錠（ペッサリー）、単回投与の錠剤のいずれかが使われます：
クリームと膣錠は、処方せんなしでも薬局で購入できます。クリームや膣錠での治療には1日～7日かかり、膣内への使用時には特別なアプリケーターが使われます。

また、単回投与の150mgの錠剤（フルコナゾール）も処方せんなしで薬局から購入することができます。この経口錠剤には、クリームや膣錠と同様の効果があります。なお、フルコナゾールの方がより高価であるほか、妊娠中は使用できません。単回投与の錠剤が他の薬との併用で問題になることはまずありませんが、この点は薬剤師に相談・確認してください。フルコナゾールは、経口避妊薬（ピル）と併用しても安全です。初回の投与から1週間後に2回目の投与が必要になることもあります。これは症状が重いときに特に多く見られます。

セックスの最中や終了後に不快な灼熱感を味わう可能性があるため、セックスをするのは治療が終わるまで避けたほうが良いかもしれません。

膣カンジダ症を発症している間に痛みを伴うセックスを繰り返すと、カンジダ症の治療を受けた後も継続的な痛みを感じるようになってしまうことがあります。また、膣カンジダ症治療用のクリームはコンドームを弱くしてしまう効果があるので、治療薬はセックスの後で塗布するようにしましょう。

治療しなかった場合の合併症 (Are there any complications if not treated?)

膣カンジダ症は非常に不快なものになることもありますが、長期的な障害・損傷を引き起こすことはありません。

しかし再発が続いても治療せずにいると、外陰部の継続的な痛みや挿入時の膣内の慢性的な痛みを引き起こすこともありますので、治療を受けることが強く推奨されています。

治療後の再発の可能性 (Is it likely to come back after treatment?)

再発性の膣カンジダ症

1年間で4回以上膣カンジダ症を発症する人は、再発性の膣カンジダ症のおそれがあります。生殖年齢にある女性の約5%が、再発性の膣カンジダ症による影響を受けます。再発性の膣カンジダ症では治療後も症状が完全に消えることはなく、皮膚の裂傷や性交中・性交後に痛みが生じることもあります。

再発性の場合、必ずしもおりものが出るわけではないので、膣カンジダ症とはかなり症状が異なるケースもあります。また、性行為中に膣が乾いたり、潤滑性が足りなくなると説明する人もよく見られます。生理の前に症状が悪化することや、生理前にしか症状が出ないこともよく見られます。

再発性の膣カンジダ症を発症している人の多くは、健康で免疫システムにも何の問題もありません。過去に花粉症や皮膚炎/湿疹、ぜんそくを発症したことがあるというケースも、少なくありません。そのような人たちの身体は、カンジダ・アルビカンスに過敏に反応してしまいます。

再発性の膣カンジダ症の治療には、しっかりと基本的なスキンケアを行い、長期にわたり抗真菌薬を使用する必要があります。薬によりイースト菌の成長を抑えることができ、こうした薬は経口（フルコナゾール）、もしくは経膣（クリームもしくは膣錠）で使用するタイプがあります。通常、治療には最低でも約6ヵ月の期間が必要です。6ヵ月の治療期間後にも発症が続くことがありますが、頻度は減るはずです。

再発性の膣カンジダ症を発症していると思う方は、医師に相談してください。

自分を守るために (How can I protect myself?)

「女性向け衛生製品」として販売されている石鹸やウェットティッシュ、膣洗浄液、クレンザー、そしてバブルバス（泡の出るお風呂）、膣内への香水の使用は、膣内の自然なイースト菌のバランスを崩してしまう可能性があるため、使用を避けましょう。

抗生物質を服用した後に膣カンジダ症が発症した場合は、膣カンジダ症の症状の兆候が最初に現れたときに治療薬を服用できるように、抗生物質と今後のプランの必要性について医師に相談してください。

支援を得られる場所 (Where can I get help?)

- お住いの地域の医師に診てもらおう
- お住まいの地域のコミュニティ医療センターに行く

免責事項 (DISCLAIMER)

このファクトシートは一般的な性健康についての情報を提供するものであり、あなたの医師への相談やその医師による診療の必要性を代替する目的で作成されたものではありません。

自身の健康に不安や懸念がある場合は、あなたの医師に相談してください。

緊急の治療やケアを要する場合は、最寄りの救急科に行くか、000番（救急）に電話通報してください。